別海町立西春別小学校　学校だより

か　ら　ま　つ　　No. １７

平成２７年１２月１５日発行　　発行責任者　校長　野口　泰秀

ご参観いただきありがとうございました

校長　野　口　泰　秀

１２月２日に実施しました参観日、給食試食会には多くのみなさまのご参会をいただき大変感謝しております。

授業参観では、１年生はカタカナ、２年生はかけ算の学習を参観していただきました。低学年では基礎的な学習が多いのですが、積極的に学ぶことが理解の高まりにつながることを感じていただけたと思います。３・４年生の道徳の学習では、よりよい人間関係をつくるための「アサーショントレーニング」に取り組みました。「マシュマロチャレンジ」では保護者の皆様にも参加していただき盛り上がっていました。５・６年生では、西春別小学校が模索してきた別海型の授業スタイルを通して子どもが主体的に学ぶ姿で見ていただきました。どの子も４月の頃に比べ確実に成長を遂げてきました。

さて、全体懇談の中で教務部・指導部・教育支援委員からお話をさせていただきました。その中で少し加えたいことがありましたので記述いたします。

①指導部からの「望ましい睡眠と成長」について

睡眠中に出る成長ホルモンが体の成長や代謝のコントロールをするという説明がありました。実は、私が一般教員の頃、野球やアイスホッケーなどの指導に携わっていました。研修会などに参加すると、少年団の練習などで傷ついた体を成長ホルモンが治してくれるというお話もありました。特に勉強になったのが、就寝時刻だけが問題ではなく、起床時刻や食事と大きくかかわるということでした。簡単に述べると、成長ホルモンが働くのは、朝、光を受けてから１５時間後であること。また、少なくとも就寝の２時間前には夕食を摂らなければいけないということです。

「早寝・早起き」「夕食の時刻」が科学的に解明されたことになります。子どもを大人の時間にあわせるのではなく、子どもの成長を大切にした時間管理をしてあげることが大切です。

②教育支援について

学校便り１４号で『みんなちがって　みんないい』ということについて記述しました。これは、教育支援の考え方を紹介したものです。教育の世界も研究が進み、様々な制度がつくられる中で、すべての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行なうことが当たり前になりました。つまり、保護者の方からの相談があれば勿論、相談がなくても、担任の先生方は、どのお子さんにも一人一人に応じた教育的支援を心がけているということです。

しかし、このように世の中が進んでいるにもかかわらず、教育支援についての理解が不十分で、偏った見方をする人もいるという報告を読んだことがあります。これでは、教育支援の制度があっても利用したいとは思わなくなります。大人も子どもも皆が正しい認識をもつことが大切だと感じています。

あと１週間で２学期も終わります。お子さんの望ましい成長のために保護者・地域の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

生活科の学習～保育園訪問

４日（金）、２年生が生活科の授業で、保育園におじゃましました。

これは、仕事をする人たちの工夫や努力について発見したり、聞き取ったりすることができるようにすることをねらいとした「話を聞きにいこう」と、作業の一部を体験したり、手伝ったりすることを通して、仕事の大変さや苦労、仕事をしている人たちの思いなどに気付くことをねらいとした「しごとにチャレンジしよう」の単元をあわせて行いました。

保育園では、手話を交えた「ともだちになるために」の合唱を聴いてもらったり、図工の時間に書いた場面の絵とともに国語で学習している「かさこじぞう」の話の読み聞かせを行いました。

後半、保育園の仕事について用意していた質問を園の先生にいろいろ教えていただきました。

園児のみなさんもしっかりと聴いてくれて、姿勢がとても立派でした。保育園の皆様には、お忙しいところお時間をいただき、丁寧に対応していただき感謝申し上げます。

授業参観から

２日(水)､授業参観日と給食試食会がありました。

参観授業では、１年生は国語、２年生は算数、３・４年生は道徳、５･６年生は算数の授業をそれぞれ参観していただきました。

道徳の授業の中では､みんなで協力してタワーを高く積み上げる「マシュマロタワー」というエクササイズがあり､参観いただいた保護者の方も挑戦していただく場面がありました。授業参観には、中学校の先生や、保育園の先生もご参観いただきました。

授業参観後は、全体懇談会、学級懇談会を行いました。全体懇談会では、「冬休みの学習や生活」について､「睡眠と成長の関わり」について､「別海町の教育支援委員会について」などの説明をいたしました。

あまり時間が取れないなかでの懇談会となりましたので、ご意見、ご質問等がございましたら、いつでも学校までお知らせいただければと存じます。

お忙しいところ大勢の保護者にお集まりいただき、誠に有難く存じます。

習い性と成る前に

ご協力いただいております学校評価ですが、現在８割を超える提出をいただいております。児童一人ひとりについてご回答をいただいているため、ご負担のかかるところもあるかと思います。ご協力ありがたく存じます。１１日を締め切りとさせていただいておりましたが、これから提出いただけるご家庭がございましたら引き続きご協力お願い致します。

集計の途中ですが、評価項目のひとつである「正しい挨拶や言葉遣い」について、おおむね満足の数値をいただいているものの横ばいの結果となっています。

実際に子どもたちの様子をみていますと、乱暴な言葉が口癖になっているような場面も見受けます。
もちろん、口にしている方は、相手を傷つけようとか、貶めてやろうというつもりで口にしているわけではありません。乱暴な言葉を口にすることが癖（習慣）になっているだけなのかも知れません。

前号のお便りでも触れましたが、習い性に成ってしまった言葉遣いを望ましい伝え方に変えさせるには大変な労力を必要とします。

下の詩は、金子みすずさんの「こだまでしょうか」という詩です。一頃、テレビのＣＭでよく流れていたので、ご存知の方も多いかと思います。

今から９０年近くも前に書かれた作品ですが、その内容は今になっても少しも色褪せることがなく、それどころか人と人が関わりあって暮らしていくために必要な不易な教えのように思えます。

「遊ぼう」って自分から言える子どもたちに。「ごめんね」って素直に言えるこどもたちに育てていくことが大人の責任なのだと強く感じます。

こだまでしょうか

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。

「馬鹿」っていうと
「馬鹿」っていう。

「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていう。

そうして、あとで
さみしくなって、

「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。